

室の泊(室津漁港)

兵庫県・たつの市



室津漁港は、「播磨国風土記」にも、名前の由来となった「この泊まり風を防ぐこと室のごとし」という記述があるように、三方を山に囲まれた天然の良港で、奈良時代には僧行基によって「摂播五泊」(難波津から瀬戸内海を通り、九州、中国へ行く時、摂津の国と播磨の国に舟を停泊するための五つの港)の一つに定められたとされる歴史ある漁港である。

港を見おろす丘の上の浄運寺前には、木曾義仲の側室で、遊女の祖とされる友君の墓があり、室津は遊女発祥の地ともいわれている。江戸時代には宿場町として大いに賑わい、西国大名が参勤交代の際に室津まで船で来て上陸し、室津街道を北上して山陽道へ出たといわれている。室津街道は、朝鮮通信使や長崎出島に滞在を許されたオランダ人が、年に一度江戸参府する際にも使われていた。また室津は近世に入って、井原西鶴の「お夏清十郎」や谷崎潤一郎の「乱菊物語」などの小説の舞台にもなっている。

江戸時代に栄えた海産物問屋の豪商「魚屋」と「嶋屋」の建物は、それぞれ重要な文化財に指定され、「室津民俗館」、「室津海駅館」として公開されており、当時の豪商の暮らしぶりを、うかがうことができる。また、湊口番所跡に設置されている巨石は、豊臣秀吉が大阪城を築いた時、西国大名が「室の泊」で海中に落としたものといわれている。このように室津は、多くの秘話や伝説を秘めた歴史と旅情の漂う港町である。

TOPICS

- ・賀茂神社(国指定重要文化財)小五月祭 4月上旬開催
- ・特産品:カキ、イカナゴクギ煮、干カレイ、焼アナゴ

お問い合わせ先

たつの市御津総合支所産業課

TEL / 07932-2-1001

URL / <http://www.city.tatsuno.hyogo.jp/>

兵庫県漁港課

TEL / 078-341-7711(代)

【交通】

バス / 山陽電鉄網干駅から約10分

バス / JR網干駅から約30分

